

**[P] 一般演題（ポスター） 「在宅医療・医療連携」**

○一場 慶裕<sup>1</sup>, 飯田 真弓<sup>1</sup>, 秋元 知也<sup>1</sup>, 川邊 麻衣子<sup>1</sup>, 三村 一平<sup>1</sup>, 添田 真司<sup>1</sup>, 丸谷 善紀<sup>1</sup>, 添石 遼平<sup>2</sup> (1.東海大学医学部付属八王子病院 薬剤部 薬剤科, 2.一般社団法人 八王子薬剤師会)

【考察】今回の調査結果より、医療機関側の返書が少ない現状が明らかとなったが、その理由としてFAXによるTRの場合、データ流用が出来ないことによる業務負担増大が一因である。ツールを介したTR運用により書式の統一化やペーパーレス化、返書作成の簡便化が期待できる。しかし近隣の医療機関がツールを導入していないとの回答が多くあったことから、今後のTR発展のためには医療機関側に積極的なツール導入アプローチが必要である。当院ではツールで受信したTRについては受信完了報告あるいは返書を全例で行っているため、当院のTR運用モデルを八王子薬剤師会で共有し、今後薬薬連携をより発展させていく。